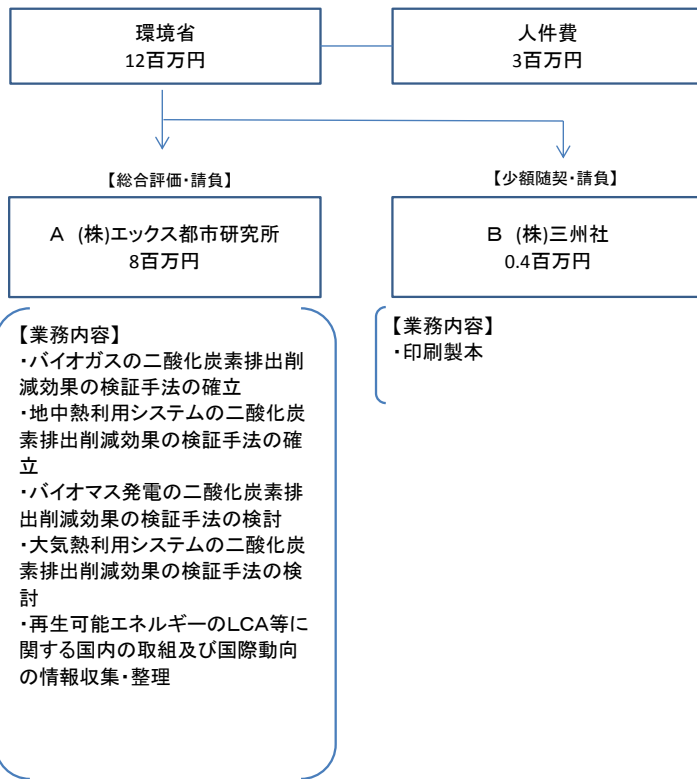


平成25年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	再生可能エネルギー二酸化炭素削減効果検証費		<b>担当部局庁</b>	地球環境局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成22～24年度		<b>担当課室</b>	地球温暖化対策課		調整官 神谷洋一		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>政策・施策名</b>	1. 地球温暖化対策の推進 1-2 国内における温室効果ガスの排出抑制				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	地球温暖化対策の推進に関する法律第3条第3項		<b>関係する計画、通知等</b>	京都議定書目標達成計画				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	再生可能エネルギーは、使用時に温室効果ガスを排出しないため、地球温暖化対策の有効な手段と考えられているが、ライフサイクルを通じた評価が必要である。そこで本事業では、再生可能エネルギー及び地中熱・大気熱利用について、原料調達、輸送、製造、処分等を含むライフサイクルを通じたCO2削減効果を把握し、あるいは検証する手法を確立し、排出削減効果の確実な把握と効果的・効率的な排出削減の実現に貢献する。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	本文献調査、ヒアリング、ケーススタディ等により、再生可能エネルギー等のライフサイクルを通じた温室効果ガス削減効果の把握・検証のための再生エネルギー等全般に適用可能な包括的なガイドラインを策定する。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の 状 況	当初予算	25	23	11			
		補正予算	-	-	-			
		繰越し等	-	-	-			
		計	25	23	11			
	執行額	22	22	12				
	執行率(%)	88%	96%	109%				
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	本事業は、ライフサイクルを通じた二酸化炭素削減効果の把握を可能にするとともに、地球温暖化対策としてより効果的な技術を導出するための検証手法の確立に向けた検討・調査を行うものであり、定量的な成果目標を設定することは困難であるが、本事業で確立した検証手法が活用されることにより、よりの確実なCO2削減効果を示すことを目標とする。		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	LCAガイドラインの策定件数		活動実績 (当初見込み)	件	0	2	1	-
					0	( 2 )	( 1 )	( - )
<b>単位当たりコスト</b>	19 (百万円/件)		算出根拠	(H22執行額+H23執行額+H24執行額)÷活動実績件数 (22百万円+22百万円+12百万円)÷3件=19百万円				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	-	-	-	-				
	計	-	-					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全世界的な温暖化対策は必須である。</li> <li>・再生可能エネルギーについて、ライフサイクルを通じたCO2削減効果の検証は不可欠であり、そのための基盤となる手法を確立することは、国が実施すべき事業である。</li> </ul>		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の受注者は、一般競争入札(総合評価)によって選定した。</li> </ul>		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業開始当初の目標設定に対して、着実に事業が進められており、策定したガイドラインは環境省のHP上で公開している。</li> </ul>		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
重複排除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)</li> </ul>		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	平成24年度に包括的なガイドラインを策定したため、平成24年度で終了とする。					
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
-						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
-						
備考						
<p>平成23年度公開プロセス            予算監視・効率化チームの所見:再生可能エネルギーのLCA評価は大変重要であるが、より効率的な事業とするため、調査対象を慎重に検討の上、必要な絞り込みを行い、事業費の縮減を図ること。            対応:調査項目等を見直し、必要最低限の予算となるよう、平成24年度概算要求額を減額。</p> <p>再生可能エネルギー等の温室効果ガス削減効果に関するLCAガイドライン:<a href="https://www.env.go.jp/earth/ondanka/lca/">https://www.env.go.jp/earth/ondanka/lca/</a></p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	012	平成24年	012

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で表情が分かるように記載)	A.(株)エクス都市研究所					
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
		本業務は請負契約であり成果物の対価として支払いを行うものであるため、精算報告書等の提出を要さないが、国費の支出の透明性を図るため任意で提出依頼を行ったところ回答を得ることができなかった。	8			
	計		8	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エクス都市研究所	再生エネルギー等全般に適用可能な包括的なガイドラインの策定	8	1	99%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三州社	印刷製本	0.4	少額随契	-